

2025 年 1 月 15 日

武蔵野美術大学 学長 殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	宮本万智	所属	通信教育課程研究室
		職位	助教

研究課題	美術における生活文化の影響について
研究先機関	美術館、博物館、ギャラリー等
主な滞在地 (国・都市名)	フィンランド・ヘルシンキ、ドイツ・ベルリン、イギリス・ロンドン、フランス・パリ
渡航日程	2024 年 12 月 2 日 ～2024 年 12 月 30 日 (29 日間)
研究目的・理由	自身の作品制作のための取材
研究成果発表予定 (展覧会、著書、論文発表等)	2025 年 3 月 グループ展：名称未定、onvo salon inamachi 2025 年 5 月 個展：名称未定 ものくり商事 オフィススペース

研究内容

今回の海外研修では、一か月という比較的長い期間を現地で過ごし、美術作品の鑑賞だけでなく、地元の人々の生活圏に触れることで文化や社会の深層を体験することができました。

滞在期間が長かったからこそ表面的な観光とは異なり、現地の日常や歴史、そして社会の抱えるさまざまな側面を肌で感じる事ができたと実感しています。特に印象的だったのはクリスマスの時期に多くの教会を訪れた経験です。教会ではミサの準備が進められている様子を目にすることが多く、祈りの空間の荘厳な空気感や、それを構成する美術的要素の役割について考えさせられました。

宗教的儀式の中で用いられる美術作品は美しさによって信仰を促す反面、その迫力は権力の象徴でもあると思い起こさせるものでもあります。

しかしヨーロッパという移民の問題で揺れる国勢でありながら、ふと立ち寄った教会で様々な人々の憩いの場となっていた事が自分の中で美術の意義を考えさせられました。

現地で触れた美術作品には、戦争や民族問題、さらには現代社会における顕在的・潜在的な問題を提起するものが多く見られました。

それらの作品に共通していたのは、形は違えど単なる美しさや技巧の追求ではなく、時代や社会が抱える課題や人々の苦悩、祈り、希望、探究心が凝縮されていた点です。

中にはそれらを読み取ることが難しい作品もありましたがこのような「問いかける美術」に向き合う時間が持てたことで、美術が持つ役割や意義についてまた違った視点を得ることができました。また、滞在中には日本とは異なる社会環境であることを強く実感しました。

土地の人々が市場に通い、街で働き日々を過ごしている。その空気感を知ることができたことも、異文化理解を深める上で非常に意味のある経験でした。

こうした現地のリアルな生活に触れることで、鑑賞した作品がその土地の歴史や社会的背景とどのように結びついているのかを、より深く感じ思考することができました。今回の研修を通じて、私が最も強く感じたことは、「現地で生で体験すること」の価値です。旅をする中で図録や画像で見るだけでは決して得られない実物からの学びがありました。

その土地の空気感や歴史的背景、現地の人々の営みを直に感じ、そこで生まれた作品の背景や文脈に思いを馳せることができたことはかつてない経験となり、自身の視野を大きく広げられたと思います。今後は、この経験を活かして、美術の持つ多様な側面をさらに深く追求し表現していきたいです。

大学授業における
研究成果の還元

担当科目がないため授業として還元する機会はありませんが、経験したことを今後の作品制作に活かしていきたいと考えています。

研究日程（全滞在期間）

出発日 (現地時間)	出発地 (国・都市名)	到着日 (現地時間)	到着地 (国・都市名)	研究内容等	滞在 日数
12/2	千葉・成田	12/3	フィンランド・ヘルシンキ	美術館鑑賞	7
12/9	フィンランド・ヘルシンキ	12/9	ドイツ・ベルリン	美術館鑑賞	8
12/16	ドイツ・ベルリン	12/16	イギリス・ロンドン	美術館鑑賞	9
12/25	イギリス・ロンドン	12/25	フランス・パリ	美術館鑑賞	4
12/29	フランス・パリ	12/30	千葉・成田	帰国	
備考					

以上